

施設長	園長	所長	記録者
			

社会福祉法人駿河会 地域密着型サービス運営推進会議【薬科】

日時 令和4年 6月10日 13:30～14:00  
 会場 ラポーレ駿河相談室  
 出席者

施設長	玉田直文	地域代表	森朝世	こだま	小林由季
園長	杉山結子	地域代表	田中博子	嘉響	加藤真子
所長	村田雄二	地域包括	稲葉紀和		

事務局 本日はお時間をいただきましてありがとうございます。  
 では、早速ですが駿河会の地域密着型サービス運営推進会議を始めたいと思います。

はじめの挨拶

玉田施設長 田中さんは初めての参加になりますが、地域の実情にもお詳しいと思いますので、ぜひご意見を頂ければと思います。  
 昨今のコロナウイルス関連のニュースでは、感染者の減少が伝えられているとともに、withコロナとしてこれからはマスクを外していく生活について報道されている。私たちも時期を見ながらマスクを外す取り組みも行っていかなければと思う。

事務局 本日の議題は令和3年度の実績報告と、地域の取組について報告させていただきます。  
 まず初めに、昨今のコロナウイルスに対する通所事業所の対応についてご報告させていただきます。

- 新型コロナウイルス関連の報告
  - ・職員のワクチン接種について
  - ・感染対策委員会の定期開催
  - ・感染状況について
- 令和3年4月より、介護報酬の改定
  - ・災害への地域と連携した対応の強化
  - ・認知症介護基礎研修受講の義務付け
  - ・科学的介護の推進
  - ・災害に対する業務継続計画（BCP）の策定

●添付資料

※こだま・嘉響報告原稿

以上、通所事業所共通の近状についてご報告させていただきました。  
 それでは、ここからは こだま、嘉響の順で、各担当者から報告させていただきます。

こだま（小林） 添付書類参照

嘉響（加藤） 添付書類参照

事務局 以上、こだま、嘉響における令和3年度実績の報告と地域の実情についてでした。各担当者は、もっとお話ししたい事があると思います。森さん、田中さん「こんなことを聞いてみたい」というような事はありますか？

森委員 防災時の取り組みについて検討されているとの話を伺い、良い事だと思いました。ここら辺の山間地では、街と違って倒木等によって道が通れないことが実際にありました。デイサービスでは自宅まで利用者さんを送ってしまえばそれで管理が終わってしまうと思いますが、帰れないときなどの想定はしていますか？

事務局 防災のBCPについては各事業所で検討を重ねているところであります。道が通れないために自宅に帰れないことの想定や、独居の方に対する対応として、まずは施設の方で避難してもらい、状況が落ち着いてからご家族の所、もしくはご自宅にお送りさせていただく事も想定してマニュアルの作成を行っています。

田中委員 防災については色々考えることが多くて大変ですよね。私の住んでいる羽鳥の地域ではこども園が避難場所になっていますが、訓練をすると人でいっぱいになってしまうので、対応が必要になってきています。地域によって対応の方法が変わるので、これからも検討を続けて下さい。実情について、介護保険当初はこういった福祉サービスを利用することに抵抗がある方がいましたが、最近ではそういった事も少なくなってきていて、福祉サービスを利用しやすい環境になってきて良いと思います。これからもたくさんの人に利用して頂けるように頑張ってください。

村田所長 確かに一時期に比べて福祉サービスの利用をしやすい環境になって、同居家族等の介護ストレス軽減につながっていると思います。新型コロナウイルスが流行した中においてもこだま、嘉響では感染者を出すことなく営業を続けることができたことは素晴らしいことだと思います。

おわりの挨拶

杉山園長 こうして顔を合わせて話を伺うことができる機会があって、ありがたいと思います。新型コロナウイルスについて、法人全体を通してクラスターになる事業所もなく運営できていることはただの偶然ではなく、職員それぞれの取り組みの効果が表れた結果だと思います。これからも皆さんに安全に利用して頂ける事業所となるよう取り組んでいきたいと思っています。本日はご足労頂いてありがとうございました。

事務局 皆さま、様々なご意見ありがとうございました。これで会議を終了とさせていただきます。次回開催時は準備ができ次第ご連絡差し上げるように致します。本日はありがとうございました。

## デイサービスセンターこだま実績報告(地域密着推進会議)

令和4年6月10日

### ★近況報告

新型コロナウイルスが流行し、2年が経ちましたが、未だマスク生活の日々を送っています。こだまでは、認知症の方が多く利用されている為、マスクをしていることが難しい方が多くいますので、職員が換気、掃除、人と人との距離などに気を付けながら業務を行っています。

職員の家族が感染し、濃厚接触者となり自宅待機になる事はありませんでしたが、こだまは、問題なく通常に営業することができました。職員数がかけた状態でも、安定した事業継続ができ、駿河会のチームワークなどを再確認できました。

### ★稼働状況

	令和3年度	令和2年度
延べ利用者数	1901名	1970名
年間収入	2420万円	2524万円
1日平均利用者数	6.19名	6.42名
新規利用者数	15名(外部6名)	13名(外部2名)
終結者数	17名	13名

#### ・終結者の増加

令和3年度は、終結者が多く新規利用者を上回りました。

また令和2年度頃より、特養入所の回転が速くなっている事をうけ、終結者の約4割が特養へ入所となりました。以前は、特養への入所希望をされていても、なかなか順番が回ってこなかった為、デイサービスの利用を増回して入所待ちをされている方が多くいました。

入所待ちの期間が短くなっている為、令和3年度では利用開始された17名のうち5名が

1年以内に終結され、利用期間も短くなっています。

#### ・外部居宅からの紹介の増加

令和2年度では、新規利用者の約2割が外部居宅からの紹介でしたが、3年度では4割が外部居宅からの紹介でした。2倍に増えています。外部からの紹介の方は、「他の事業者で断られた」「退院後利用したいが、歩行が難しく援助量が多い」などの理由で選ばれていました。こだまは、定員12名で小人数の為、手厚い介護を行うことができる為、援助量の多い方が利用される傾向があります。

これからも、外部からの紹介が頂ける様に、ケアマネにこだまを選ばれた理由などの聞き取りを行いながら、今後に繋げていきたいと思えます。

★地域に向けた活動

・清沢まつり、大川収穫祭

例年 11 月に開催される、清沢まつりと大川収穫祭については、前年度と同様に、コロナ

禍の為、中止になりました。

開催されていた時には、作品の展示していたため、みなさんのやりがいの為にも、こだまでは、フロア内に作品を飾り、利用者同士で鑑賞する見る機会を作りました。

・地域清掃

令和 2 年度では、日熊神社や歩道の清掃を定期的に行っていましたが、現在利用者の状態の変化などもあるため、できる時に実施する形で継続していません。

前年度は、利用者のやりたいことに目を向け、利用された際に、やりたいことをできるよう活動などに取り組んできました。例えば、「自宅での生活が継続出来るように、筋力の維持をしたい。」という方には、体調に合わせ、体を動かす機会を提供して目標を評価してきました。みなさん、やりたいことに対して目標を達成することができました。

今年度は、普段何気なく行っている良い援助方法や、こだまとしての強みなどに目を向け、記録として残していくことで、今後の利用者の状態維持・向上に繋げていきたいと思っています。

## 令和4年 第1回運営推進会議 嘉響報告

開催日：令和4年6月10日（金） 13：30～

### ① 年間報告

- ・利用者：事業対象者から要介護4、最高齢は100歳。
- ・利用者登録人数：要支援：22名、要介護：29名、計51名  
(R2年度：要支援：24名、要介護30名、計54名)
- ・延べ利用者数：2614名（R2年度：3181名）
- ・稼働率：47%
- ・新規利用者は要支援認定5名、要介護認定10名の15名、終結は17名
- ・終結理由としては、死亡や状態変化などが挙げられ、中にはご本人は元気で過ごされているが、同居する主介護者の体調不良が原因で介護力の低下に繋がり、在宅生活が続けられず、別施設へ入居されたケースもありました。
- ・R3年度から新しく科学的介護推進体制加算を算定し始め、新しい取り組みとして、日常生活動作を把握するための評価方法を使い、定期的に身体機能を細かく評価してきた結果約8割の方が身体機能の維持向上が出来たということが分かりました。
- ・新型コロナの感染状況を見て、ケアマネジャーのもとへ訪問し、改めて事業所の紹介や活動報告をしてきました。R4年度は、延べ利用者数や登録者数が減少している現状もあるため、ケアマネジャーのもとへ訪問し、直接顔を合わせて活動報告をしつつ、積極的にまだ訪問したことのない事業所へ出向いて広報活動していきたいと思っています。

### ② 活動状況

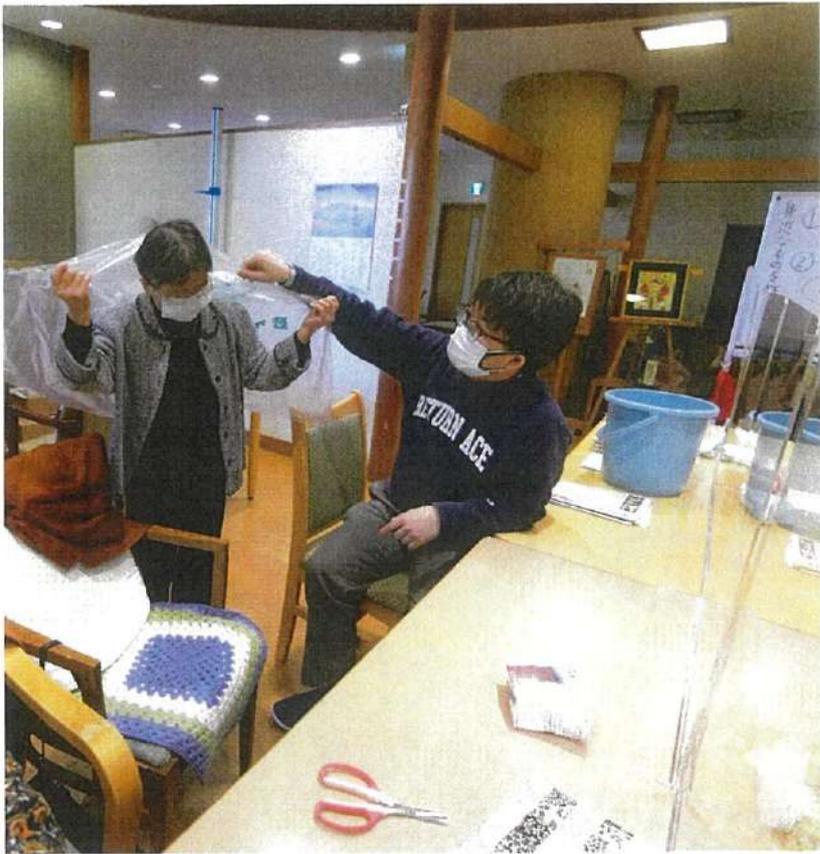
- ・R3年度の嘉響の目標は「『今日来て良かった』と思える嘉響にしよう」という目標のもと、活動してきました。午後の活動において、利用者が嘉響でいたいこと・やりたいことを活動として取り組んだ結果、自発的に活動に取り組めるようになった方、職員が活動の提案することでその中から自分で選択できる利用者が見えてきたように感じます。利用者が何をやりたいかを聞き出し、活動が見えたことで、利用者と職員と一緒に活動を楽しむことができたと思います。また利用者と一緒に活動を振り返ることで、直接満足度を感じる事ができ、さらに活動の追求に繋がりました。

・地域貢献の一環として続けてきた手縫いの雑巾寄贈は、新型コロナウイルスの感染状況を見て、感染対策をした上で職員がこども園 2 施設へ寄贈させていただきました。

・非常防災対策への取り組みとして、全国各地で地震が発生している中、静岡県も何年前から東海地震がささやかれています。自宅での地震発生時、避難所まで自力で移動できない方たちが多いことから「自宅で地震が起きた時どうするか」をテーマに皆さんと意見を出し合いました。防災グッズを常備している家庭が少なかったため、自宅にあるものを利用して、防災グッズを作ってみることにしました。ゴミ袋を使用した雨合羽は、機能性を重視して、パーツを追加して工夫したり、簡易トイレについては、段ボールとゴミ袋を使用し、作ってみたが、「この姿勢で用を足すのは大変だね」など、実際に作ってみて分かった問題点も出てきました。防災意識が薄い方が多い中、実際に皆さんで考えることで、少しでも防災対策について身近に感じた利用者様もいたため、身近なものを使用し、一緒に考える防災訓練を行うことは意味のあることだと感じました。

【雨合羽を作っている様子】





【雨合羽完成】



【簡易トイレを作っている様子】

